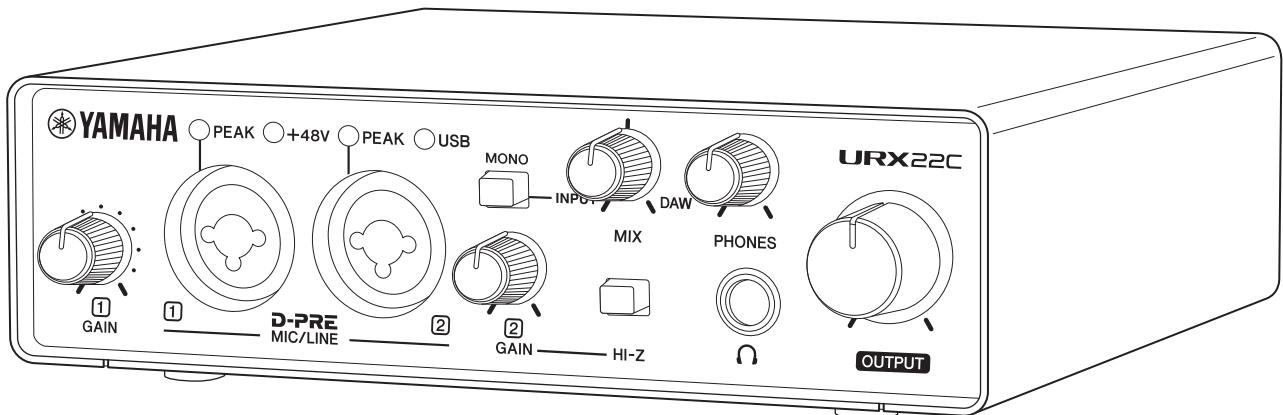




# URX22C

USB AUDIO INTERFACE



## 目次

主な特長.....	2
使用上のご注意.....	2
各部の名称と機能 .....	3
フロントパネル .....	3
リアパネル.....	5
ソフトウェア.....	6
Yamaha Steinberg USB Driver .....	6
コンピューターで使う .....	8
接続例 .....	8
コンピューターの設定.....	9
DAWソフトウェアのオーディオ設定をする ...	10
録音/再生する.....	11
iOS機器で使う .....	13
接続例 .....	13
録音/再生する.....	14
困ったときは.....	16
資料 .....	18
エフェクトの使用制限.....	18
コンピューターのコネクター形状.....	18
本体内部の信号の流れ.....	19
ブロックダイアグラム .....	20
技術仕様.....	21
一般仕様.....	22
TOOLS for UR-Cのアンインストール.....	23

## 主な特長

### 2 × 2 USB 3.0 Audio Interface with 2 × D-PRE and 32-bit/192 kHz support

URX22Cは2入力/2出力のUSB 3.0オーディオインターフェースです。定評あるD-PREマイクプリアンプを2基搭載、クラス最高の32-bit/192 kHzに対応し、どんなオーディオソースに対してもそのニュアンスや表現力を余すところなく捕えます。

### True 32-bit resolution

URX22CとYamaha Steinberg USB Driverは、ともに従来の32-bit Floatデータよりも高い解像度でオーディオ信号を表現できる32-bit Integerデータをサポートします。Cubaseのように32-bit Integerデータを完全に活用できるDAWソフトウェアと組み合わせることで、これまで経験したことのない解像度での音楽制作を実現できます。

### USB 3.0 and USB Type-C™

URX22CはUSB Type-C端子を装備するだけでなく、USB 3.0 (USB 3.1 Gen 1) SuperSpeedモードに正式対応しています。またUSB 2.0 High-Speedモードによる広い互換性も提供しており、Type-C to Type-Aケーブルが付属します。

### dspMixFx

URX22Cに搭載された最新のカスタムDSPチップ“SSP3”によって実現されるdspMixFxテクノロジーは、REV-XをはじめとしたDSPエフェクトを駆使したレイテンシーフリーのモニタリング環境をどんなDAWソフトウェアと組み合せた場合にも提供できます。

## 使用上のご注意

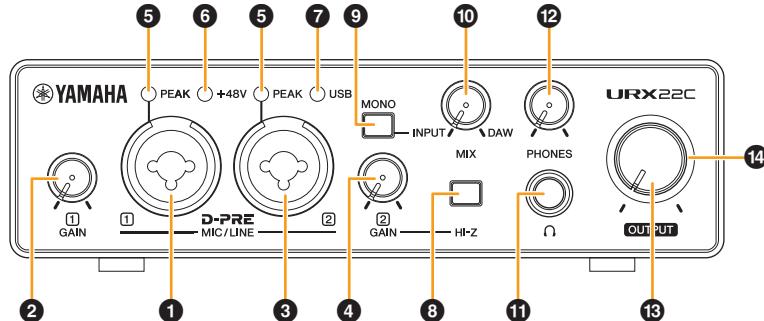
製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、以下の内容をお守りください。

### ■ 製品の取り扱いに関するご注意

- ・本製品の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かないでください。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しないでください。内部に水などの液体が入ると、故障の原因になります。

# 各部の名称と機能

## フロントパネル



### プラグの種類



### NOTE

ファンタム電源はXLRタイプにのみ供給されます。

### ② [INPUT 1 GAIN]ノブ

[MIC/LINE 1]端子の入力信号レベルを調節します。

### ③ [MIC/LINE 2]端子

マイク、電子楽器、エレキギター、エレキベースなどを接続します。この端子は、XLRタイプとフォーンタイプ(バランス/アンバランス)のプラグを接続します。

### NOTE

ファンタム電源はXLRタイプにのみ供給されます。

### ④ [INPUT 2 GAIN]ノブ

[MIC/LINE 2]端子の入力信号レベルを調節します。

### ⑤ [PEAK]インジケーター

入力信号がクリッピングレベルより3 dB低いレベルになると点灯します。

### 最適な録音レベルにするために

一番大きな音のときに、[PEAK]インジケーターが一瞬点灯するレベルになるように調整します。

### ⑥ [+48V]インジケーター

[+48V]スイッチ(ファンタム電源)がオンのときに点灯します。

### ⑦ [USB]インジケーター

本体の電源が入りコンピューターやiOS機器と通信できているときに点灯します。コンピューターやiOS機器と通信できていないときは点滅します。

### ⑧ [INPUT 2 HI-Z]スイッチ

[MIC/LINE 2]端子の入力インピーダンスを切り替えます(オン■/オフ■)。エレキギター やエレキベースなど、出力インピーダンスの高い楽器を[MIC/LINE 2]端子に直接接続するときは、オンにします。HI-Zスイッチをオンにするとときは、楽器と[MIC/LINE 2]端子をフォーンタイプのアンバランスのケーブルで接続してください。

### 警告

スピーカー保護のため、[INPUT 2 HI-Z]スイッチをオン/オフする前にモニタースピーカーの電源をオフにしてください。また、[OUTPUT]ノブなどの出力コントロールは、すべて最小にしてください。大音量が出て、聴力障害または外部機器の損傷になることがあります。

### ご注意

[INPUT 2 HI-Z]スイッチをオンにしたまま機器を抜き差ししないでください。外部機器および本体の故障の原因になります。

### NOTE

- ・バランスのケーブルで接続したときは、正常に動作しません。
- ・HI-Zスイッチがオンのときには、XLRタイプからの信号がカットされます。

### ⑨ [MONO]スイッチ

オンのときは、[MIC/LINE 1/2]端子への入力が[MAIN OUT L/R]端子と[PHONES]端子のL/Rチャンネルの両方に出入力されます。オフのときは、[MIC/LINE 1]端子への入力が[MAIN OUT L]端子へ、[MIC/LINE 2]端子の入力が[MAIN OUT R]端子へ出力されます。

[PHONES]端子では、[MIC/LINE 1]端子の入力がLチャンネルへ、[MIC/LINE 2]端子の入力がRチャンネルへ出力されます。

**⑩ [MIX]ノブ**

[MIC/LINE 1/2]端子に入力された信号と、DAWなどのソフトウェアから出力された信号の音量バランスを調節します。[MIX]ノブによる操作は、コンピューターに送信される信号には影響を与えません。

**MIXノブの使い方**

入力した音量が大きいと感じる場合は[DAW]側へ、DAWからの音量が大きいと感じる場合は[INPUT]側へノブを回します。ノブを[DAW]側へ最大限に回すと、DAWからの音だけが聞けます。

**⑪ [PHONES □]端子**

ヘッドフォンを接続します。

**⑫ [PHONES]ノブ**

ヘッドフォンの出力信号レベルを調節します。

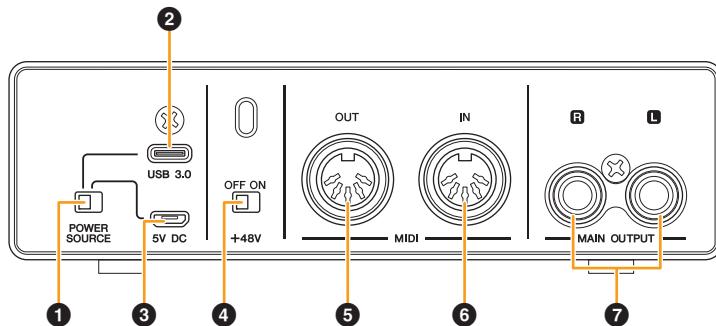
**⑬ [OUTPUT]ノブ**

[MAIN OUTPUT]端子の出力信号レベルを調節します。

**⑭ POWERインジケーター**

本体の電源が入ると点灯します。電源供給に問題があると点滅します。点滅した場合は、電源アダプターをご使用ください。

## リアパネル



### ① [POWER SOURCE]スイッチ

本体に電源供給する端子を選びます。[USB 3.0]端子から電源供給するときは[USB 3.0]端子側へ、[5V DC]端子から電源供給するときは[5V DC]端子側へスイッチを切り替えます。

### ② [USB 3.0]端子

コンピューターまたはiOS機器を接続します。

#### ご注意

[USB 3.0]端子でコンピューターと接続するときは、コンピューターと本体の停止(ハングアップ)によるデータの損失を防ぐため、以下のことを行ってください。

- ・USBケーブルの抜き差しをする前に、すべてのアプリケーションを終了させてください。
- ・USBケーブルの抜き差しは、6秒以上間隔を空けて行ってください。

#### NOTE

iOS機器と本体の接続には、Apple社のアクセサリが必要な場合があります。詳細は、URX22Cセットアップガイドをご参照ください。

### ③ [5V DC]端子

USB電源アダプターやUSBモバイルバッテリーなどを接続します。この端子はMicro USB B端子を接続します。iOS機器や十分なバスパワーが供給できないコンピューターと接続する場合に使います(本製品には、USB電源アダプターやUSBモバイルバッテリーは付属しません)。

#### ご注意

- ・お使いになるUSB電源アダプターやUSBモバイルバッテリーの安全上のご注意をお読みください。
- ・5pin microUSBプラグで、規格に適合した電源供給ができるUSB電源アダプターやUSBモバイルバッテリーをお使いください。

出力電圧 4.8 V ~ 5.2 V

出力電流 0.9 A以上

#### 5V DCの活用

コンピューターと接続する場合でも、[POWER SOURCE]スイッチを[5V DC]側に設定すると[5V DC]端子からの外部電源で動作できます。外部電源を活用することで、たとえばコンピューターのUSB端子からの電源に起因するノイズや音質劣化などの問題を回避できます。

### ④ [+48V]スイッチ

ファンタム電源(+48V)をオン/オフします。このスイッチをオンにすると、[MIC/LINE 1/2]のXLR端子にファンタム電源を供給します。コンデンサーマイクを使用するときは、このスイッチをオンにします。

#### ご注意

ファンタム電源を使用する場合、本体/外部機器の故障やノイズを防ぐために、以下の内容をご注意ください。

- ・ファンタム電源のスイッチをオンにしたまま、ケーブルの抜き差しをしない。
- ・ファンタム電源のオン/オフは、フロントパネルの⑫ [PHONES]ノブ、⑬ [OUTPUT]ノブを最小にした状態で行う。
- ・[MIC/LINE 1/2]端子にファンタム電源非対応の機器を接続するときは、ファンタム電源のスイッチをオフにする。

#### NOTE

ファンタム電源をオン/オフすると、オン/オフ操作された端子への入力信号は数秒間ミュートされます。

### ⑤ [MIDI OUT]端子

MIDI機器のMIDI INに接続します。コンピューターから送信されたMIDI信号を出力します。

### ⑥ [MIDI IN]端子

MIDI機器のMIDI OUTに接続します。MIDI信号をコンピューターへ送信します。

#### NOTE

- ・iOS機器用アプリケーションでMIDI端子を使用する場合、MIDIポートとして[Steinberg UR22C-ポート1]を選択してください。[Steinberg UR22C-ポート2]は使用できません。
- ・安定したデータ送受信が保証できない場合があるため、MIDIを使用中に、dspMxFxを起動しないようにしてください。

### ⑦ [MAIN OUTPUT L/R]端子

モニタースピーカーなどを接続します。この端子には、フォーンタイプ(バランス/アンバランス)のプラグを接続します。出力レベルは、本体前面パネルの[OUTPUT]ノブで調節可能です。

# ソフトウェア

ここでは、コンピューターで使用する場合のソフトウェアについて説明します。

## Yamaha Steinberg USB Driver

本体とコンピューターの間でデータをやりとりするためのソフトウェアです。コントロールパネルで、オーディオドライバーの基本設定や切り替え(Windows)やオーディオドライバー情報の確認(Mac)ができます。

### 画面の開き方

#### Windows

- スタートメニューから、[Yamaha Steinberg USB Driver] → [Control Panel]
- Cubaseシリーズのメニューから、[スタジオ] → [スタジオ設定...] → [Yamaha Steinberg USB ASIO] → [コントロールパネル]

画面上部のタブをクリックすると、画面が切り替わります。

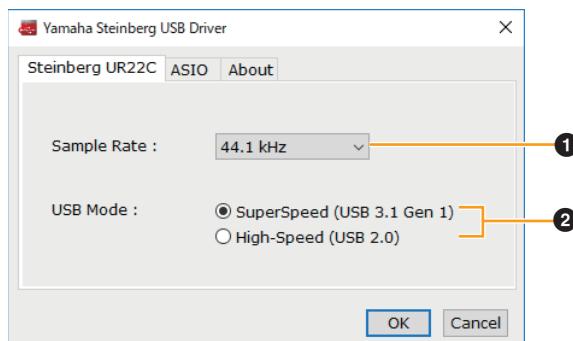
#### Mac

- [アプリケーション] → [Yamaha Steinberg USB Control Panel]
- Cubaseシリーズのメニューから、[スタジオ] → [スタジオ設定...] → [Steinberg UR22C DAW]または[Steinberg UR22C DAW (High Precision)] → [コントロールパネル] → [Open Config App]

### コントロールパネル

本体のサンプリング周波数やUSBモードを切り替えます。

#### Windows



#### Mac



### ① Sample Rate

本体のサンプリング周波数を切り替えます。

**選択肢** : 44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz

#### NOTE

設定できるサンプリング周波数は、DAWの対応するサンプリング周波数によって異なります。

### ② USB Mode

USB通信の転送速度を切り替えます。デフォルトはSuperSpeed (USB 3.1 Gen 1)モードです。

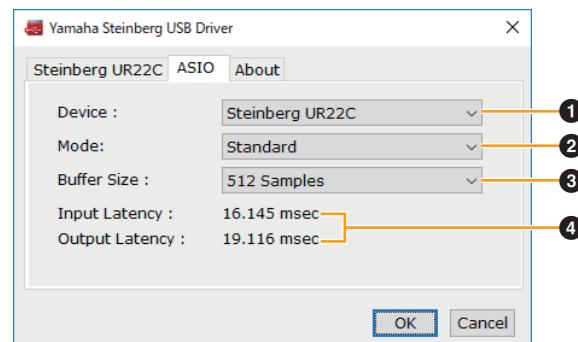
**選択肢** : SuperSpeed (USB 3.1 Gen 1)、High-Speed (USB 2.0)

#### NOTE

High-Speed (USB 2.0)モードでは通信帯域幅が狭くなりますが、URX22Cの動作に影響はありません。また、レイテンシーなどその他の性能も変わりません。

## ASIO画面(Windowsのみ)

ASIOドライバーの設定を切り替えます。



### ① Device

ASIOドライバーで使う機器を切り替えます。コンピューターにYamaha Steinberg USB Driver対応機器が2台以上接続しているときに有効です。

### ② Mode

レイテンシーのモードを選びます。

**選択肢** : Low Latency、Standard、Stable

選択肢	説明
Low Latency	レイテンシーが小さいモードです。安定して使用するには高性能なコンピューターが必要です。
Standard	標準的なレイテンシーモードです。
Stable	レイテンシーが大きいモードです。性能が低いコンピューターや、負荷の高いDAWプロジェクトでも安定して使用しやすくなります。

### ③ Buffer Size

ASIOドライバーのバッファーサイズを切り替えます。サンプリング周波数の値で、バッファーサイズの設定範囲が変わります。バッファーサイズの設定でレイテンシーの値が変わります。バッファーサイズの値を小さくするほど、レイテンシーの値が小さくなります。

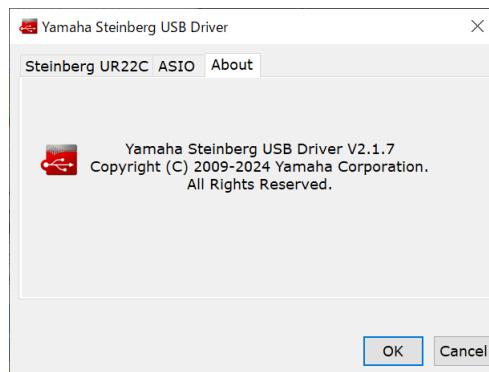
サンプリング周波数	設定範囲
44.1 kHz / 48 kHz	32 Samples ~ 2048 Samples
88.2 kHz / 96 kHz	64 Samples ~ 4096 Samples
176.4 kHz / 192 kHz	128 Samples ~ 8192 Samples

### ④ Input Latency/Output Latency

オーディオ入出力信号のレイテンシー(遅延時間)を、ミリ秒単位で表示します。

## About画面

オーディオドライバーのバージョンと著作権情報を表示します。



### サンプリング周波数の切り替え(Mac)

[Audio MIDI設定]で切り替えます。[アプリケーション] → [ユーティリティ] → [Audio MIDI設定]を開き、[フォーマット]でサンプリング周波数を切り替えます。

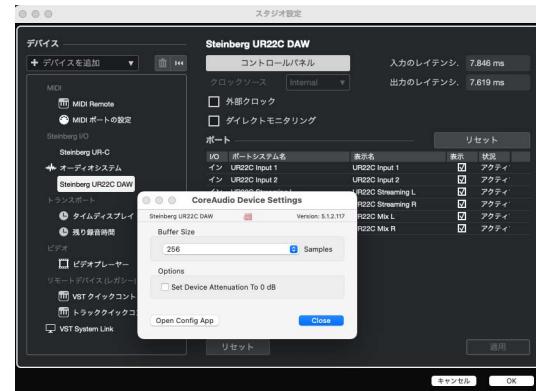


### バッファーサイズの切り替え(Mac)

各アプリケーション(DAWソフトウェアなど)の設定画面で切り替えます。

Cubaseシリーズのメニューから、[スタジオ] → [スタジオ設定]を開き、画面左メニューの[Steinberg UR22C DAW]または[Steinberg UR22C DAW (High Precision)]内にある[コントロールパネル]をクリックし、バッファーサイズを切り替えます。

設定画面の開き方は、アプリケーションによって異なります。

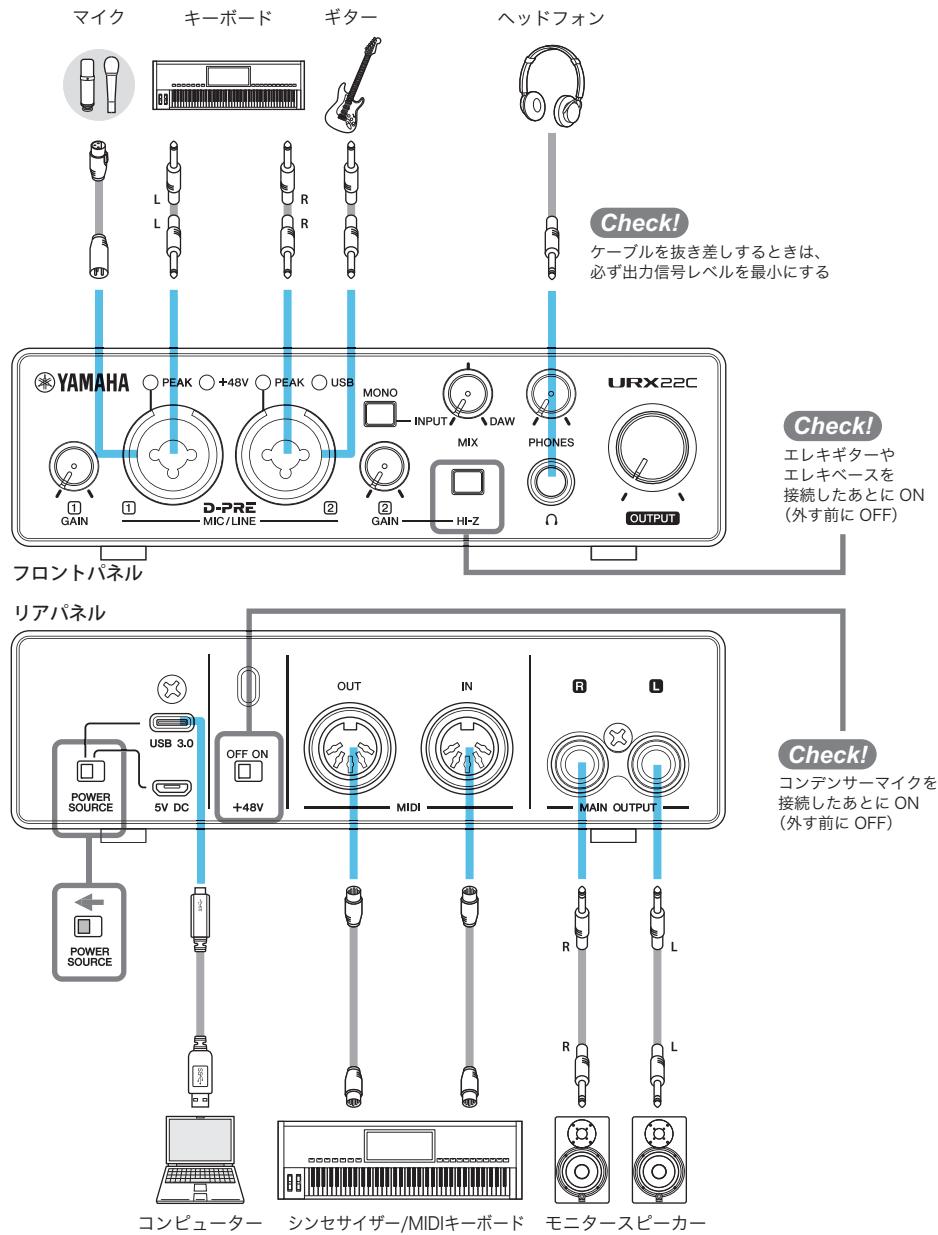


### 32-bit Integerで使用するには(Mac)

Cubaseでは、[Steinberg UR22C DAW]または[Steinberg UR22C DAW (High Precision)]を選びます。Cubaseとドライバーの間を、32-bit Integerのビット解像度で処理する場合は、[Steinberg UR22C DAW (High Precision)]を選びます。

# コンピューターで使う

## 接続例



### NOTE

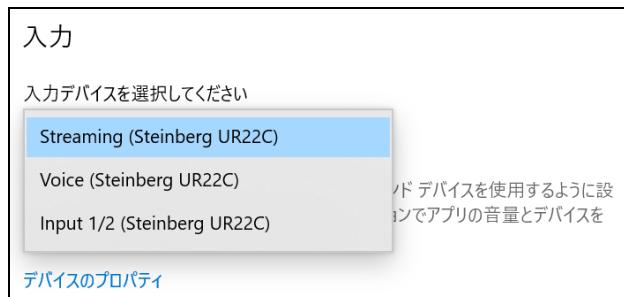
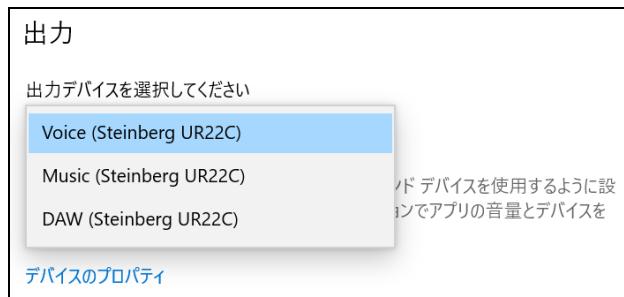
- バスパワーで使用する場合は、コンピューターのUSB 3.0端子に接続します。
- 本体と接続するコンピュータのコネクター形状については、「コンピューターのコネクター形状」(18ページ)をご参照ください。

## コンピューターの設定

Yamaha Steinberg USB Driverとの組み合わせで、UR-Cを3系統のオーディオデバイスとして扱えます。

### Windowsの場合

サウンドの出力デバイスとして、Music (Steinberg UR22C)、Voice (Steinberg UR22C)およびDAW (Steinberg UR22C)を、入力デバイスとして、Streaming (Steinberg UR22C)、Voice (Steinberg UR22C)およびInput 1/2 (Steinberg UR22C)を選択できます。



DAWアプリなどを使用する際は、トラックのモニター機能などで信号のフィードバックループが発生することがあるため、使用するアプリケーションの設定を十分ご確認ください。

### NOTE

サウンドの入出力デバイス名は歴代のモデルを継承して、以下のように表示されることがあります。



## 入力

入力デバイスを選択してください

Line (Steinberg UR22C)

Voice (Steinberg UR22C)

Input 1/2 (Steinberg UR22C)

ドデバイスを使用するように設定でアプリの音量とデバイスを

[デバイスのプロパティ](#)

必要に応じて、サウンドのプロパティで、LineからMusicまたはLineからStreamingに変更してください。

## デバイスのプロパティ

Music × 名前の変更

### Macの場合

Steinberg UR22C DAW、Steinberg UR22C Streaming/Music、Steinberg UR22C Voiceの三つのオーディオ装置として選択できます。



Audio MIDI設定のオーディオ装置の画面

## DAWソフトウェアのオーディオ設定をする

### Cubaseシリーズ

1. Cubase シリーズが起動している場合は、終了します。

#### **NOTE**

Macでは、[Steinberg UR22C DAW (High Precision)]を選択している場合、Cubaseがドライバーを占有します。

2. 付属のUSBケーブルを使って、本体にコンピューターを接続します。
3. 本体の[USB]インジケーターが点灯していることを確かめます。
4. Cubaseシリーズを起動します。
5. 起動中、[ASIOドライバー選択]画面が表示されたときは、本体が選ばれていることを確認して、[OK]をクリックします。

#### **NOTE**

Macでは、[Steinberg UR22C DAW (High Precision)]を選択している場合、Cubaseが排他的にドライバーを使用します。このとき、他のアプリケーションでは[Steinberg UR22C DAW]を使用できません。

以上で、設定は完了です。

### Cubaseシリーズ以外のDAWソフトウェア

1. DAWソフトウェアが起動している場合は、終了します。
2. 付属のUSBケーブルを使って、本体にコンピューターを接続します。
3. 本体の[USB]インジケーターが点灯していることを確かめます。
4. DAWソフトウェアを起動します。
5. オーディオインターフェースを設定する画面を開きます。
6. (Windowsのみ)DAWソフトウェアが使用するドライバーを、ASIOに設定します。
7. ASIOドライバー(Windows)またはオーディオインターフェース(Mac)を以下のように設定します。

#### **Windows**

ASIOドライバーを[Yamaha Steinberg USB ASIO]に設定します。

#### **Mac**

使用するオーディオインターフェースをUR22Cに設定します。

以上で、設定は完了です。

## 録音/再生する

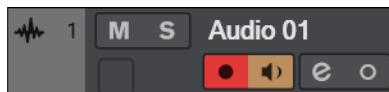
マイクを使った録音/再生の方法です。接続例([8ページ](#))に従って、[MIC/LINE 1]端子にマイクを接続します。コンデンサーマイクを使用するときは、ファンタム電源をオンにしてください

### Cubaseシリーズ

1. Cubaseシリーズを起動し、[Cubase Hub]画面を表示します。
2. [その他]の中にある[Empty]を選んで、[作成]をクリックします。
3. 以下の方法で、ダイレクトモニタリングをオンにします。  
[スタジオ] → [スタジオ設定] → [Yamaha Steinberg USB ASIO] (Windows)または[Steinberg UR22C DAW] (Mac) → [ダイレクトモニタリング]にチェックを入れる → [OK]
4. プロジェクト画面に戻り、[プロジェクト] → [トラックを追加] → [Audio]をクリックし、[トラックを追加]を表示します。
5. [オーディオ入力]を選び、[構成]を[Mono]、[名前]を入力し、[数]を[1]として、[トラックを追加]をクリックし、新規のAudioトラックを1つ作成します。



6. 追加されたオーディオトラックの[録音可能]がオン(点灯:赤)になっていることと、[モニタリング]がオン(点灯:オレンジ)になっていることを確かめます。オンになっていないときは、クリックしてオンにします。



7. マイクで音声を入力しながら、本体の[INPUT 1 GAIN]ノブで入力信号レベルを調節します。

#### 最適な録音レベルにするために

一番大きな音のときに、[PEAK]インジケーターが一瞬点灯するレベルになるように調整します。

8. マイクで音声を入力しながら、本体の[PHONES]ノブでヘッドフォンの出力信号レベルを調節します。

9. ○をクリックして、録音を開始します。



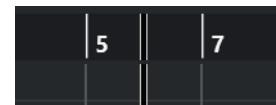
10. 録音が終わったら、□をクリックして停止します。



11. オーディオトラックの[モニタリング]をオフ(消灯:グレー)にします。



12. ルーラー上をクリックして、再生を開始したい位置にプロジェクトカーソルを移動します。



13. ▶をクリックして再生し、録音した音を聴きます。

モニタースピーカーで音を聞くときは、本体の[OUTPUT]ノブで出力信号レベルを調節します。



以上で、録音/再生の操作は完了です。

Cubaseシリーズの詳しい使い方は、Cubaseシリーズの取扱説明書をお読みください。

## Cubaseシリーズ以外のDAWソフトウェア

1. DAWソフトウェアを起動します。
2. dspMixFx UR-Cを開きます。
3. マイクで音声を入力しながら、本体の[INPUT GAIN]ノブでマイクの入力信号レベルを調節します。

### 最適な録音レベルにするために

一番大きな音のときに、[PEAK]インジケーターが一瞬点灯するレベルになるように調整します。

4. マイクで音声を入力しながら、本体の[PHONES]ノブでヘッドフォンの出力信号レベルを調節します。
5. 必要に応じてdspMixFx UR-Cを使って、URX22Cの設定をします。
6. DAWソフトウェアで、録音を開始します。
7. 録音が終わったら、停止します。
8. 録音した部分を再生して、音を確かめます。

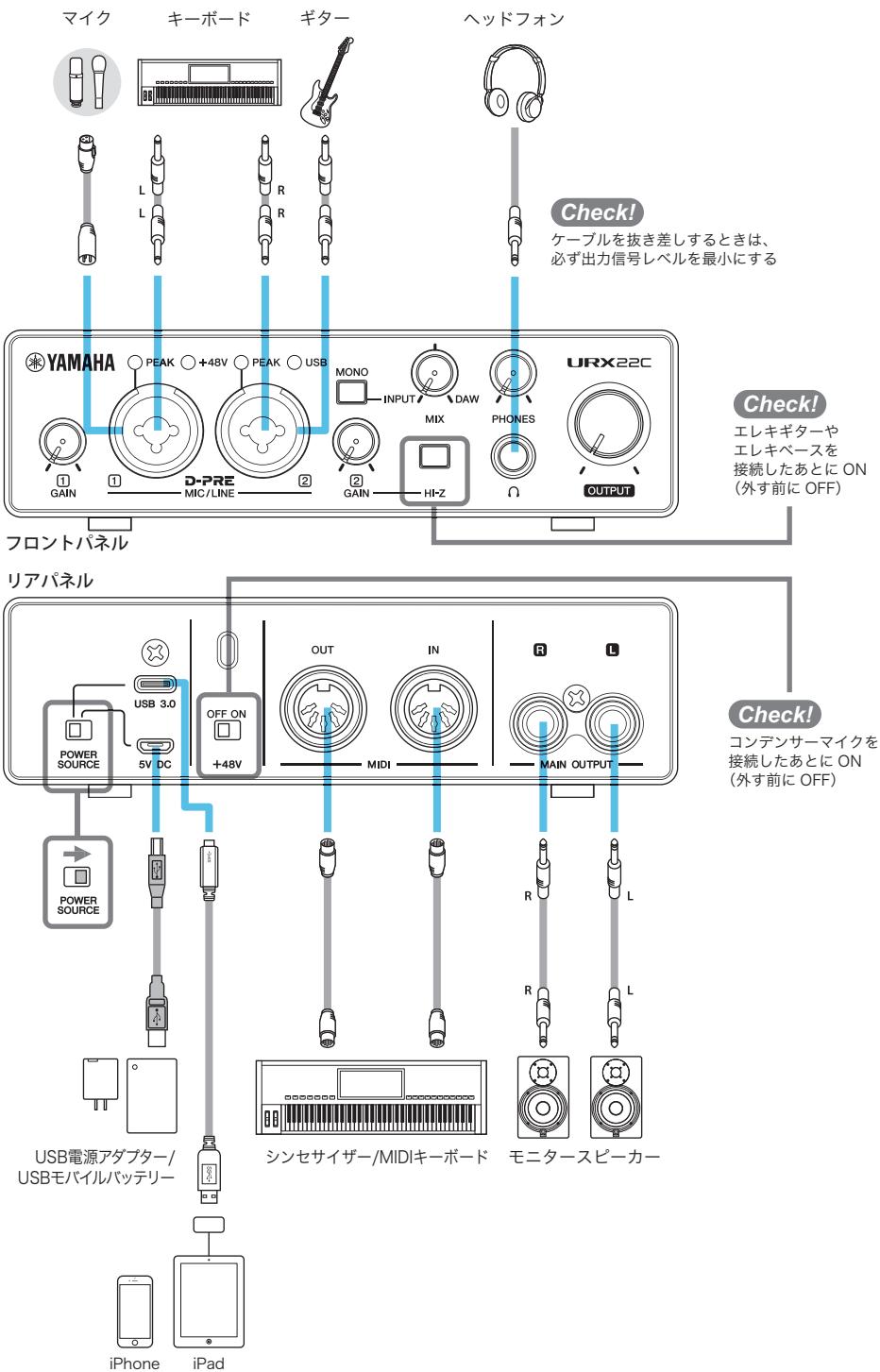
dspMixFx UR-Cの詳しい使い方は、dspMixFx ユーザーガイドをお読みください。

[https://manual.yamaha.com/audio/apps\\_software/dspmixfx/](https://manual.yamaha.com/audio/apps_software/dspmixfx/)

DAWソフトウェアの詳しい使い方は、DAWソフトウェアの取扱説明書をお読みください。

# iOS機器で使う

## 接続例



### NOTE

- iOS機器と本体の接続には、Apple社のアクセサリが必要な場合があります。詳細は、URX22Cセットアップガイドをご参照ください。
- iOS機器を操作する場合、USB電源アダプターまたはUSBモバイルバッテリーから電源供給が必要となります。
- 対応のiOS機器の情報については、以下のヤマハウェブサイトをご参照ください。  
<https://www.yamaha.com/2/urx22c/>

## 録音/再生する

マイクを使った録音/再生の方法です。接続例(13ページ)に従って、[MIC/LINE 1]端子にマイクを接続します。コンデンサーマイクを使用するときは、ファンタム電源をオンにしてください。

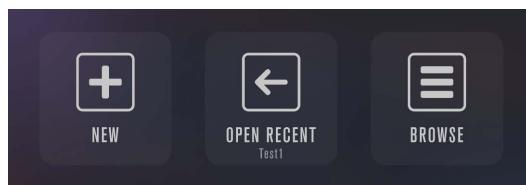
ここでは例としてCubasis (DAWアプリケーション)を使って説明します。

### NOTE

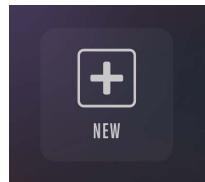
Cubasisの詳細は、以下のSteinbergウェブサイトをご参照ください。サポートはSteinbergウェブサイトのフォーラム(英語)で提供しています。

<https://www Steinberg.net/ja/cubasis/>

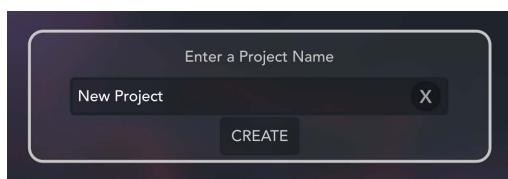
### 1. Cubasisを起動します。



### 2. 画面の[NEW]をタップします。



### 3. [New project]画面にて、プロジェクト名を入力し、[CREATE]をタップします。



### 4. 画面下部にある[+ADD]をタップし、次に[AUDIO]をタップしてAudio Trackを追加します。



### 5. 画面左横のタブにある▶をタップして、Trackインスペクターを表示します。



### 6. ⚙をタップして詳細画面を表示し、数値をタップして楽器やマイクを接続している入力端子にあわせます。

### 7. □をタップしてモニタリングをオン(点灯)にします。

### 8. マイクで音声を入力しながら、本体の[INPUT 1 GAIN]ノブでマイクの入力信号レベルを調節します。

#### 最適な録音レベルにするために

[PEAK]インジケーターが赤く点灯するまで入力信号レベルを上げます。その後、一番大きな音のときに一瞬点灯するレベルになるまでゆっくりと下げます。

### 9. マイクで音声を入力しながら、本体の[PHONES]ノブでヘッドフォンの出力信号レベルを調節します。

### 10. [○]をタップして、録音を開始します。



11. 録音が終わったら、[▶]をタップして停止します。



12. ルーラーをドラッグして、再生を開始したい位置に  
プロジェクトカーソルを移動します。



[◀]をタップすることで、録音を開始した位置に戻ることもできます。

13. [▶]をタップして再生し、録音した音を聴きます。



#### dspMixFx (iOS機器用)

iOS機器からはdspMixFx for iOSを使って本体に搭載されているDSPミキサーやDSPエフェクトを操作できます。詳細は、以下のヤマハウェブサイトをご参照ください。

<https://www.yamaha.com/2/dspmixfx/>

dspMixFx UR-Cの詳しい使い方は、dspMixFx ユーザーガイドをお読みください。

[https://manual.yamaha.com/audio/apps\\_software/dspmixfx/](https://manual.yamaha.com/audio/apps_software/dspmixfx/)

# 困ったときは

<p><b>POWERインジケーターが点灯しない</b></p>	<p><b>[POWER SOURCE]スイッチの設定は適切ですか？</b></p> <p>電源供給がない場合は点灯しません。バスパワーで動作させるときは[USB 3.0]端子側へ(コンピューターのみ)、USB電源アダプターやUSBモバイルバッテリー電源で動作させるときは[5V DC]端子側へスイッチを切り替えてください。</p>
<p><b>POWERインジケーターが点滅し続ける</b></p>	<p><b>電源供給に問題はありませんか？</b></p> <p>電源供給に問題がある場合は点滅します。[POWER SOURCE]スイッチを[5V DC]端子側へにスライドして、USB電源アダプターやUSBモバイルバッテリーをご使用ください。</p>
<p><b>USBインジケーターが点滅したままで点灯に切り替わらない</b></p>	<p><b>適切なUSBケーブルをお使いですか？</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>同梱のUSBケーブルをご使用ください。</li> <li>コンピューターのUSB Type-C端子と本体を接続する場合は、市販のUSB 3.1 Type-C to Type-Cケーブルが別途必要です。</li> </ul>
<p><b>音が出ない</b></p>	<p><b>TOOLS for UR-Cはインストールしましたか？(コンピューターのみ)</b></p> <p>本体とコンピューターが通信できていないときは点滅します。セットアップガイドを参照して、TOOLS for UR-Cをインストールしてください。</p>
<p><b>DAWソフトウェアのオーディオ設定は完了しましたか？</b></p>	<p><b>DAWソフトウェアのオーディオ設定は完了しましたか？(コンピューターのみ)</b></p> <p>セットアップガイドを参照して、TOOLS for UR-Cをインストールしてください。</p>
<p><b>本体の出力レベルは上がっていますか？</b></p>	<p><b>適切なUSBケーブルをお使いですか？</b></p> <p>付属のUSBケーブルをご使用かどうかを確認してください。</p>
<p><b>本体が、マイクやモニタースピーカーと正しく接続されていますか？</b></p>	<p><b>本体が、マイクやモニタースピーカーと正しく接続されていますか？</b></p> <p>「接続例」(8ページ、13ページ)を参照して、マイクやモニタースピーカーが正しく接続されていることを確認してください。</p>
<p><b>Cubaseシリーズの[ASIOドライバー]の設定は適切ですか？</b></p>	<p>Cubaseシリーズのメニューから、[スタジオ] → [スタジオ設定] → [オーディオシステム]を開き、右側の[ASIOドライバー]に[Yamaha Steinberg USB ASIO] (Windows)、[Steinberg UR22C DAW]または[Steinberg UR22C DAW (High Precision)] (Mac)が選ばれていることを確認してください。</p>
<p><b>Windows</b></p> 	<p><b>Mac</b></p> 

音が出ない	<p><b>DAWソフトウェアの起動前に、コンピューターと本体を接続しましたか？</b> 本体とコンピューターを接続したあと、DAWソフトウェアを起動してください。</p>
	<p><b>入出力のルーティング設定は適切ですか？</b> 「録音/再生する」(11ページ)を参照して、DAWソフトウェアの入出力のルーティング設定を確認してください。</p>
	<p><b>モニタースピーカーの電源がオフになってしまいませんか？</b> モニタースピーカーの電源がオンになっていることを確認してください。</p>
	<p><b>バッファーサイズが小さすぎませんか？</b> 「Yamaha Steinberg USB Driver」(6ページ)を参照して、バッファーサイズを確認してください。</p>
	<p><b>「Audio Format is Unmixable」のエラーメッセージが表示されませんか？ (Macのみ)</b> Cubaseが正常に終了しなかった場合、Yamaha Steinberg USB Driverのコントロールパネルに「Audio Format is unmixable」のエラーメッセージが表示されます。[Revert to Mixable]を押してエラーを解消します。</p> 
<b>音が正常に出ない</b> (ノイズ、音切れ、歪み、ハウリング)	<p><b>お使いのコンピューターは、動作環境を満たしていますか？</b> 最新の情報については、以下のヤマハウェブサイトをご参照ください。 <a href="https://www.yamaha.com/2/urx22c/">https://www.yamaha.com/2/urx22c/</a></p>
	<p><b>USBモードは適切ですか？</b> お使いのコンピューターに搭載されているUSBホストコントローラーによっては、SuperSpeed (USB 3.1 Gen 1)モードでのご使用時に音切れが発生することがあります。そのような場合には、Yamaha Steinberg USB DriverのコントロールパネルでUSBモードをHigh-Speed (USB 2.0)に変更してみてください。</p>
	<p><b>DAWソフトウェア上で、たくさんのオーディオトラックを再生していませんか？</b> お使いのコンピューターの性能によっては、たくさんのオーディオトラックを再生すると音が途切れたりすることがあります。オーディオトラックを少なくて、音を確認してください。</p>
	<p><b>マイクの接続方法は適切ですか？</b> マイクはXLR端子で接続してください。マイクをフォーン端子で接続すると、十分な音量が得られません。</p>
	<p><b>ループバックの設定は適切ですか？</b> ループバック機能を使わない場合、dspMixFxのマスターエリアでループバックの設定をオフにしてください。</p>
	<p><b>「Audio Format is Unmixable」のエラーメッセージが表示されませんか？ (Macのみ)</b> Cubaseが正常に終了しなかった場合、Yamaha Steinberg USB Driverのコントロールパネルに「Audio Format is unmixable」のエラーメッセージが表示されます。[Revert to Mixable]を押してエラーを解消します。</p>

最新のサポート情報は、以下のヤマハウェブサイトをご参照ください。

<https://www.yamaha.com/2/urx22c/>

# 資料

---

## エフェクトの使用制限

URX22Cには、Channel Stripが2つ、Guitar Amp Classicsが1つ搭載されています。

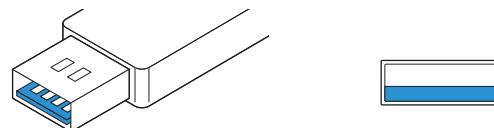
また、各入力チャンネルにエフェクトをインサートするSLOTが2つ用意されているので、Channel StripとGuitar Amp Classicを同じチャンネルで同時に使用することも可能です。

ただし、以下の使用制限があります。

- ・ Channel Strip 2つを同じチャンネルで使用することはできません。
- ・ Guitar Amp Classicsはステレオチャンネルでは使用できません。
- ・ Guitar Amp Classicsはサンプリング周波数176.4kHz, 192kHzのときは使用できません。

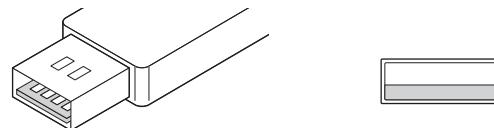
## コンピューターのコネクター形状

### USB 3.0 Type A



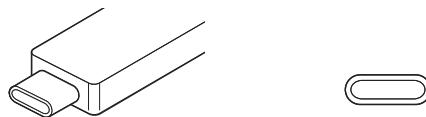
コンピューターのUSB 3.0 Type A端子に接続する場合は、付属のUSBケーブルが必要です。

### USB 2.0 Type A



コンピューターのUSB 2.0 Type A端子に接続する場合は、付属のUSBケーブルと市販のUSB電源アダプターまたは市販のUSBモバイルバッテリーが必要です。

### USB 3.1 Type C



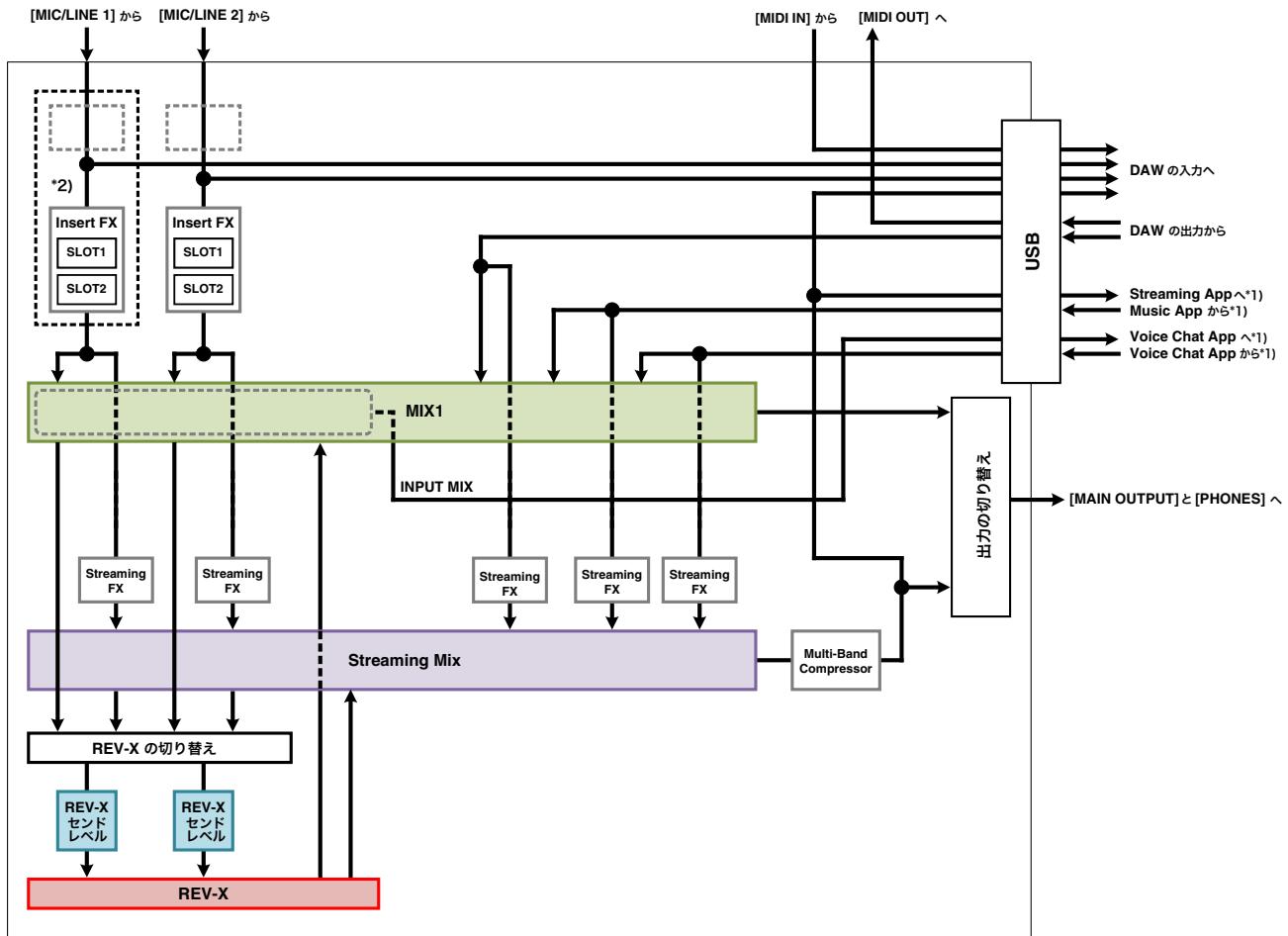
コンピューターのUSB 3.1 Type C端子に接続する場合は、市販のUSB 3.1 Type-C to Type-Cケーブルが別途必要です。

## 本体内部の信号の流れ

下の図は、本体内部の信号の流れを示すものです。

### NOTE

- ・本体の操作子([INPUT GAIN]ノブ、[OUTPUT]ノブなど)は省いています。
- ・サンプリング周波数が176.4 kHzまたは192 kHzの場合、本体に搭載されているGuitar Amp Classicsは使用できません。

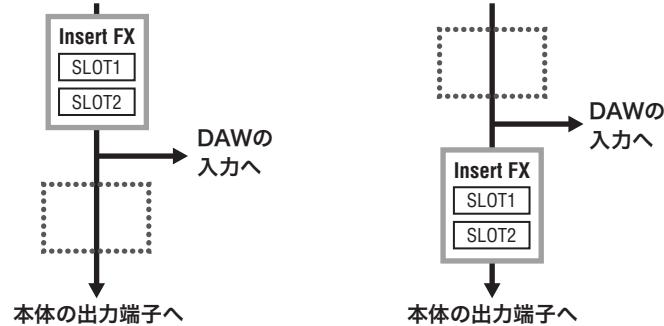


\*1) iPhone、iPadとの接続時には使用できません。

\*2) エフェクトの挿入位置を、以下に示します。

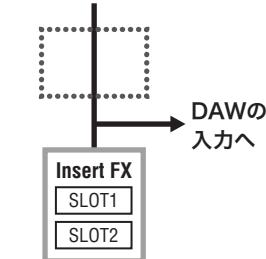
### FX REC (オン)

本体の入力端子から



### FX REC (オフ)

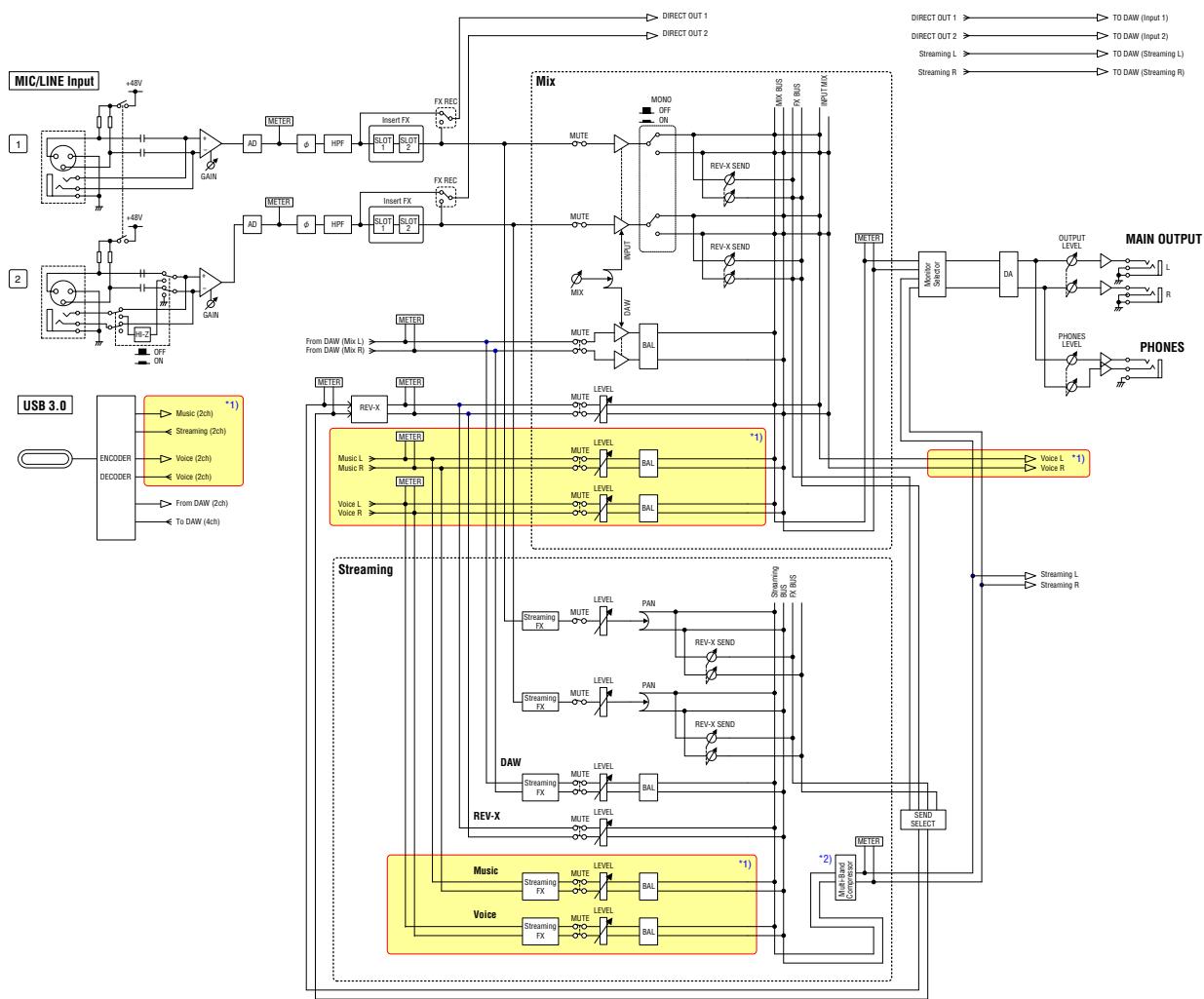
本体の入力端子から



・DSPエフェクトのかかった信号をDAWで録音する場合は、FX RECをオンに設定します。

・DSPエフェクトのかかっていない信号をDAWで録音する場合は、FX RECをオフに設定します。

## ブロックダイアグラム



## 技術仕様

<b>MIC INPUT 1/2 (バランス)</b>	
周波数特性	+0.0/-0.4 dB, 20 Hz ~ 22 kHz
ダイナミックレンジ	102 dB, A-Weighted
全高調波歪率	0.003 %, 1 kHz, 22 Hz/22 kHz BPF
最大入力レベル	+6 dBu
入力インピーダンス	4 kΩ
Gain範囲	+6 dB ~ +60 dB
<b>HI-Z INPUT 2 (アンバランス)</b>	
最大入力レベル	+9.0 dBV
入力インピーダンス	1 MΩ
Gain範囲	0 dB ~ +54 dB
<b>LINE INPUT 1/2 (バランス)</b>	
最大入力レベル	+22 dBu
入力インピーダンス	18.5 kΩ
Gain範囲	-10 dB ~ +44 dB
<b>MAIN OUTPUT (インピーダンスバランス)</b>	
周波数特性	+0.0/-0.2 dB, 20 Hz ~ 22 kHz
ダイナミックレンジ	105 dB, A-Weighted
全高調波歪率	0.002 %, 1 kHz, 22 Hz/22 kHz BPF
最大出力レベル	+12 dBu
出力インピーダンス	150 Ω
<b>PHONES</b>	
最大出力レベル	15 mW +15 mW, 40 Ω
<b>USB</b>	
仕様	USB 3.0, 32-bit, 44.1 kHz/48 kHz/88.2 kHz/96 kHz/176.4 kHz/192 kHz
<b>XLR INPUT</b>	
極性	 ピン1 : グラウンド ピン2 : ホット(+) ピン3 : コールド(-)

## 一般仕様

電源条件	4.5 W
最大外形寸法 (W × H × D)	159 × 47 × 159 mm
質量	1.0 kg
動作環境温度	0 °C～40 °C
付属品	<ul style="list-style-type: none"><li>・USB 3.0ケーブル(3.1 Gen1, Type-C to Type-A, 1.0 m)</li><li>・セットアップガイド(冊子、保証書付き)</li><li>・Cubase AI License Card</li><li>・Basic FX Suite License Card</li><li>・Steinberg Plus License Card</li></ul>

本書は、発行時点での最新仕様で説明しています。最新版は、ヤマハウェブサイトからダウンロードできます。

# TOOLS for UR-Cのアンインストール

TOOLS for UR-Cのアンインストールは、以下のソフトウェアを個別に削除する必要があります。

- ・ Yamaha Steinberg USB Driver
- ・ Steinberg UR-C Applications
- ・ Basic FX Suite

以下の手順でアンインストールします。

## Windows

- 1.** コンピューターから、マウスとキーボード以外のUSB機器をすべて外します。
- 2.** コンピューターを起動して、管理者権限のあるアカウントでログオンします。  
アプリケーションを終了し、使っていないウィンドウをすべて閉じます。
- 3.** 以下の方法で、アンインストールするための画面を表示します。  
[コントロールパネル] → [プログラムのアンインストール]を選択し、[プログラムのアンインストールまたは変更]を表示します。
- 4.** リストから、削除するソフトウェアを選びます。
  - ・ Yamaha Steinberg USB Driver
  - ・ Steinberg UR-C Applications
  - ・ Basic FX Suite
- 5.** [アンインストール]/[アンインストールと変更]をクリックします。  
[ユーザー アカウント制御]画面が表示された場合は、[続行]または[はい]をクリックします。
- 6.** 画面の指示に従ってアンインストールします。

選ばなかったソフトウェアをアンインストールするときは、上記手順4~6を繰り返します。

以上で、TOOLS for UR-Cのアンインストールは完了です。

## Mac

- 1.** コンピューターから、マウスとキーボード以外のUSB機器をすべて外します。
- 2.** コンピューターを起動して、管理者権限のあるアカウントでログインします。  
アプリケーションを終了し、使っていないウィンドウをすべて閉じます。
- 3.** あらかじめダウンロードしておいたTOOLS for UR-Cを展開します。
- 4.** 展開したフォルダー内にある、以下のファイルをダブルクリックします。
  - ・ Uninstall Yamaha Steinberg USB Driver
  - ・ Uninstall Steinberg UR-C Applications
  - ・ Uninstall Basic FX Suite
- 5.** 「Welcome to the \*\*\* uninstaller.」と表示されたら、[Run]をクリックします。  
\*\*\*はソフトウェア名です。  
以降は、画面の指示に従って削除を進めます。
- 6.** 「Uninstallation completed.」と表示されたら、[Restart]または[Close]をクリックします。
- 7.** コンピューターの再起動を促す画面が表示されたら、[再起動]をクリックします。

選ばなかったソフトウェアをアンインストールするときは、上記手順4~7を繰り返します。

以上で、TOOLS for UR-Cのアンインストールは完了です。

ヤマハグローバルサイト  
<https://www.yamaha.com/>

ヤマハダウンロード  
<https://download.yamaha.com/>